

能
「小鍛冶 白頭」
上田大介

狂言
「神鳴」
善竹忠重

第十四回

神戸能

能
「草子洗小町 替装束」
上田貴弘



◆ 令和4年3月20日(日)
午後1時開演(午後12時半開場)
◆ 神戸文化ホール 中ホール

©ウシマド写真工房

主催 / 公益社団法人 能楽協会
共催 / 公益財団法人 神戸市民文化振興財団 神戸文化ホール
全席自由席 **税込 4,700円** U25 (25歳以下) **1,800円**
※友の会会員は2割引き
※U25チケットは神戸文化ホールプレイガイド窓口または、
神戸文化ホールオンラインチケットサービスのみの取り扱いです。要年齢証明。
※未就学児童の入場はご遠慮ください。

プレイベント「第十四回 神戸能 体験講座」
日程: 2022年2月19日(土)
場所: 神戸文化ホール リハーサル室
時間: ① 10:30 ② 14:00 (30分前より受付スタート)
※2回とも同じ内容
参加料: 500円(本公演のチケットの提示で参加無料)
参加申込開始: 2021年12月14日(火)
お申し込み・お問い合わせ先: 神戸文化ホール TEL078-351-3397

※プレイベント参加
希望の方は、必ず
事前予約をお願い
します。
※神戸文化ホール
HP内の予約フォーム ▲予約フォーム
からお申し込みください。



チケット発売日
文化ホール友の会先行発売:
2021年12月7日(火)10:00~
一般発売: 2021年12月14日(火)10:00~

チケット発売 神戸文化ホール プレイガイド ☎078-351-3349
神戸文化ホールオンラインチケットサービス
(<https://www.kobe-bunka.jp/hall/>)
チケットぴあ (Pコード: 509-596) <http://pia.jp/t/>
ローソンチケット (Lコード: 52958) ☎0570-084-005

交通: 神戸市営地下鉄「大倉山駅」下車すぐ、
JR「神戸駅」・神戸高速鉄道
「高速神戸駅」下車約10分
お問い合わせ先: 神戸文化ホールプレイガイド
☎078-351-3349

第十四回 神戸能

2022年3月20日(日)午後1時開演(午後12時30分開場)

解説 上田 拓 司

能 「草子洗小町」 替装束

小野小町	上田 貴 弘	後見	上田 拓 司
紀貫之	笠田 昭 雄		藤 谷 音 彌
壬生忠岑	藤 井 丈 雄		
河内躬恒	林 本 大	地謡	藤 井 完 治
官女	前田 和 子		山 村 啓 雄
官女	森 田 彩 子		勝 部 延 和
王	弁 木 咲 妃		吉 井 基 晴
			梅 谷 宏
大伴黒主	江崎 欽 次 朗		上 田 宜 照
黒主ノ下人	善 竹 忠 亮		上 田 顕 崇
			岡 野 八 重 子
笛	齊 藤 敦		
小鼓	高 橋 奈 王 子		
大鼓	大 村 滋 二		

狂言 「神鳴」

神鳴	善 竹 忠 重	後見	尾 鍋 智 史
医師	牟 田 素 之		
		地謡	善 竹 忠 亮
			前 川 吉 也
			小 林 維 毅

休憩

能 「小鍛冶」 白頭

童子 稲荷明神	上田 大 介	後見	下 川 宜 長
			田 中 章 文
三條宗近	江崎 正 左 衛 門		
勅使	松 本 義 昭	地謡	上 田 拓 司
従者	岡 村 和 彦		山 田 義 高
			吉 井 基 晴
笛	八 木 原 周 平		佐 伯 紀 久 子
小鼓	古 田 知 英		藤 谷 音 彌
大鼓	森 山 泰 幸		竹 石 宗
太鼓	梶 谷 義 男		笠 田 祐 樹
			上 田 顕 崇

能 草子洗小町 替装束

平安時代、都の清涼殿で歌合(歌人が左右に分かれて、おのおの歌を詠み、その優劣を競う王朝の貴族の遊び。)が催されることになっており、歌人・大伴黒主(ワキ)の相手には小野小町(シテ)と定められました。歌合の前日、大伴黒主は歌合に勝ちたいとの執念から、小野小町の家へ忍び入り、彼女の和歌を盗み聴き、その歌を万葉集の草子に書き入れ、盗作を演出しようとして企てました。

翌日の歌会では、帝をはじめ、紀貫之ら歌人が居並ぶ場で、まず小町の歌が披露されましたが、黒主は古歌の盗作だと騒ぎ立て、証拠の草子を提出します。汚名を着せられ、心を痛めた小町でしたが、黒主の企みに気づいた小町が草子を水で洗うと、例の文字だけが消えてしまい、入れ筆であることが判明します。陰謀の露見した黒主は自害しようと座を立ちますが、小町は歌道への熱い思いゆえのことだからと黒主を許します。

こうして小町、黒主の遺恨もなく、歌会の座は円満に収まり、小町は御代を寿ぎ、和歌の徳をたたえて舞を舞うのでした。



ウシマツ写真工房

狂言 神鳴

都で流行らぬヤブ医者が、東国へ下る途中、突然雷鳴が響き渡り、目の前に神鳴り自身が落ちてきました。腰を強く打った神鳴りは、この医者に針治療をしてもらい、そしてまた雷鳴を響かせながら天へ帰っていくのでした。

能 小鍛冶 白頭

平安時代、夢のお告げを受けた一条天皇は、勅使の橘道成(ワキツレ)を遣わし、刀匠として名高い三條宗近(ワキ)に剣を打つよう命じます。宗近は、相鎚を打つ者がいないために打ち切れない、と返答を洩りますが、道成は聞き入れません。進退きわまった宗近は、神仏の加護を願って稲荷明神に参詣します。そこで宗近は、童子(前シテ)に声をかけられます。童子は、剣の威徳を称える中国の故事や日本武尊の物語を語って宗近を励まし、神の助力を予告すると、稲荷山に消えていきました。家に帰った宗近は自邸に祭壇を築き、神に祈りを捧げていると稲荷明神のご神体が狐の精霊の姿(後シテ)で現れ、「相鎚を勤める」と告げます。先ほどの少年は、稲荷明神の化身だったのです。神の助けを得た宗近は、天下無双の霊剣“小狐丸”を打ち上げます。

表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘とが刻まれ、朝廷に献上された後、霊狐は雲に乗って稲荷の峯に帰っていきました。

■お客様へのお願い

本公演・イベントは、新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催いたします。チケットご購入・ご来館の前に、神戸文化 HP 内の「お客様へのお願い」を必ずご確認ください。



◀神戸文化ホール ホームページ

神戸文化ホール



お問い合わせ: 神戸文化ホール プレイガイド ☎ 078-351-3349